

# いごいのみぎわ

## 天路歷程 ジョン・バニヤン

### 第7話

2022年1月2日～1月8日 各家庭でのディボーション用テキスト

今や基督者の予期するものは、ただ死のみであった。そして悲しげに泣き出した。彼は世才氏と会った時をただのろい、その勧めをきいたことで絶えず自分を大ばか者と呼んだ。彼はまたその紳士の議論がただ肉の思いから出たものに過ぎないのに、彼に正道を捨てさせるほど有力だったことを思いだして大いに恥じた。こうした後、彼は再び伝道者に次のような言葉と意味で話しかけた。

基督者 先生、どうお考えでしょうか。見込みがありますでしょうか。これから引き返してくぐり門の方へ上って行ってもいいでしょうか。今度のことで見捨てられて、恥をかってそこから返されるのではないのでしょうか。あの人の勧めを聞いたことは残念です。しかし私の罪は許されましょうか。

その時伝道者は彼に言った、君の罪は非常に大きい。というのは君はそのために二つの悪いことをした。つまり、禁断の道に踏みこむために善い道を捨てたからだ。しかし門の所にいる人は君を受け入れるだろう、彼は人々に対して好意を持っているから。彼はまた言った、ただ二度と道にはずれないように気をつけなさい。

「少しでも、み怒りが燃えるときは、道で滅びるだろう」【詩2:12】から。そこで基督者は引き返す仕度をした。すると伝道者は彼に接吻してから、彼に向かって、にっこり笑い、道中の無事を祈った。かくて彼は急いで行き、途中だれとも口を利かず、まただれかが尋ねても返事を与えようとしなかった。彼はこの間ずっと禁制の地を踏んでいる者のように歩き、世才氏の勧めに従うために捨て

たもとの道に再び入るまでは、自分が安全であるとはどうしても考えられなかった。やがて基督者は門に着いた。さて門の上には「門をたたけ、そうすれば、あけてくれよう」【マタ7:8】と書いてあった。そこで彼は何度もたたいて言った、

今ここにに入れてもらえましょうか。

その価値もない反逆者でしたが、

内なる方は哀れな私に開けてくれるのでしょうか。

そうすれば必ず高きにいます者へ永遠の賛歌を歌います。

ついに好意者という名のおごそかな人が門の所へ来て、そこにいるのはだれか、どこから来たのか、何用か、と聞いた。

基督者 これは重荷を負うた哀れな罪びとです。滅亡の都から来ましたが、来たらんとする怒りから救われるためにシオンの山へ行くところです。そこで、この門はそこへ行く道であると承りましたので、私を喜んで入れて下さるかどうかわかりとうございます。

好意者 心から喜んでお入れいたしましょう。そう言いながら彼は門を開けた。

こうして基督者が踏み入ろうとすると、相手は彼をぐいと引いた。そこで、これはどういうわけで、と基督者が言うと、相手は語った、この門から少し離れた所に堅固な城が立っていて、ベルゼブルがその城主です。彼とその一味はこの門までやって来た者が入ることのできる前にそこから矢を射るのです、ひょっとして死にはすまいかと思ってね。そこで基督者は言った、私は喜び、また震えます。かくて彼が入ってしまうと、門を守る人は彼に尋ねた、だれがここを教えたのですか。

**基督者** 伝道者が命じたのです、ここに来て叩きなさい（今、私がしたように）。そうすれば、あなたが私のなすべきことを教えるであろうと。

**好意者** 開いた戸があなたの前にあります。だれもそれを閉じることはできないのです。

**基督者** 今こそ私は自分の冒険の利益を刈り取ることになりました。

**好意者** しかしどうしてあなたはひとりで来たのですか。

**基督者** 隣近所の人たちはだれも私のように危険をさとらなかったからです。

**好意者** だれかその中であなたの来るのを知っていた人がいますか。

**基督者** はい、私の家内と子供たちが最初に私を見まして、引き返すよう後から呼びました。また近所の人たちの中にも立って叫び、帰りなさいと後から呼びかける者もありました。しかし私は指を耳に入れて道を進んで来ました。

**好意者** ですが、その中にあなたを追って、戻るように勧めた者はいなかったのですか。

**基督者** いえ、強情者と柔順者の二人がありました。しかし説き伏せることができないと分かると強情者はののしりながら帰って行き、柔順者は少しいっしょについて来ました。

**好意者** ですが、どうして彼はずっとついて来なかったのですか。

**基督者** 実際私たちはいっしょに来たのですが、落胆の沼までやって来ると、突然その中に落ち込んだのです。それからというものは隣人の柔順者はがっかりして、どうしても先に進もうとしなかったのです。そんな訳で自分の家の近くの側に再び抜け出ると、その結構な国は自分ひとりでお持ちなさるとよいと言いました。このようにして彼は自分の道を行き、私は私の道をやって来ました。彼は強情者の後を追う、私はこの門へとやって来たというわけです。



くぐり門の基督者

【ジョン・バニヤン 天路歷程 正篇 より】

※この本は図書に置かれています。さらに読みたい方はどうぞご利用下さい